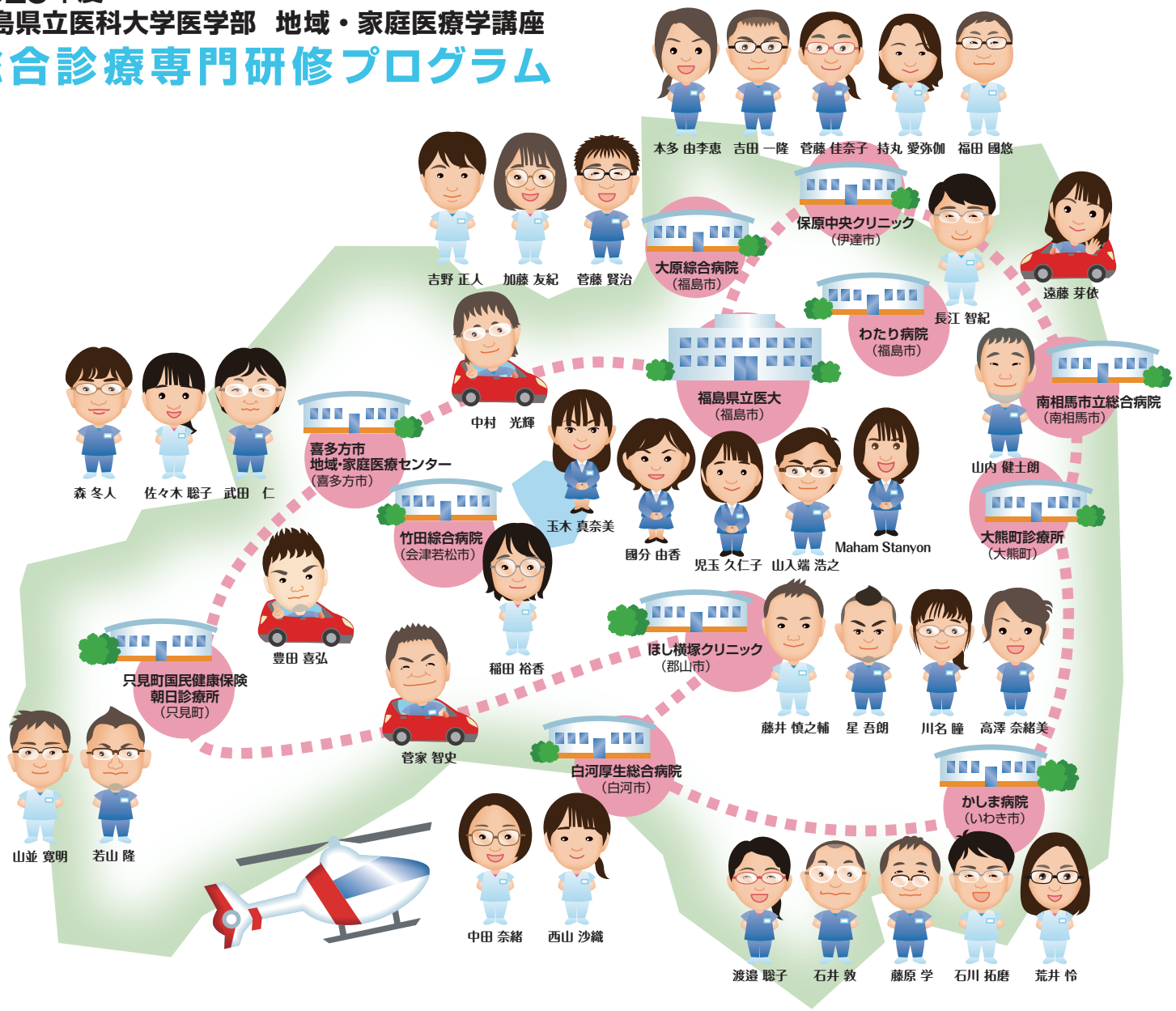
2023年度
福島県立医科大学医学部　地域・家庭医療学講座

総合診療専門研修プログラム



FUKUSHIMA　Department of Community and Family Medicine, Fukushima Medical University

“住民を診まもる　総合診療医になろう”

募　集　案　内

総合診療 ふくしま

福島医大　総合診療専門研修プログラムの特徴

1 「研修の質にこだわる」

下記の 6 施設を中心に、都市部からへき地まで様々なセッティングにおける総合診療研修を可能としています。日本プライマリ・ケア連合学会認定 **家庭医療専門医**の資格を有する指導医が**16 名**在籍する**全国でも有数**の大規模な総合診療専門研修プログラムです。家庭医療学を学んだ指導医のもとで、総合診療の学問的基盤を学ぶことができます。

2 「ワークライフバランス」

研修期間に結婚・妊娠・育児といったライフイベントが重なる専攻医も多いです。私たちは**プライベートの充実が研修や仕事の充実につながる**と考えています。配属医療機関の選定には希望を最大限考慮し、毎年数名の医師が時短勤務や当直・在宅当番の免除、十分な産休・育休期間の確保といった調整をしつつ、状況に応じた勤務を続けています。

3 「多様な経験、キャリアをもつ指導医陣」

病院・診療所・在宅医療の各臨床現場でリーダーシップを発揮する指導医たちが揃っています。さらに、医学教育や地域づくり、国際交流、キャリア支援などの活動経験を持つ多様な指導医がいます。臨床能力の確かな成長に加えて、**様々な活動、様々なキャリアに触れるチャンスが豊富です。**

4 「教育に関わる機会」

研修施設では医学部生の臨床実習や初期臨床研修医の地域医療研修を受け入れています。臨床実習では**医学部 4-5 年生が 1 週間**（必修）、**6 年生が 2 週間**（選択）で、専攻医も教育に関わることでみずからの学びを深めることができます。大学講座としての利点を生かして、**教育の質向上に関する FD** (Faculty development) や**教育研究**に取り組む機会もあります。

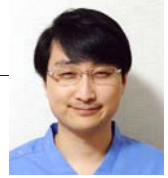
多彩な総合診療研修サイト

	保原中央クリニック（伊達市）	外来と在宅医療が中心の無床診療所。近郊の家庭医診療所として複数の家庭医によるグループ診療を行う。在宅患者は 60 人以上を担当。多彩な新規事例の経験や経営マネジメントの実践ができ、大学に近いサイトとして研修をしながら大学院へ通うことが可能。
	かしま病院（いわき市）	いわき市の医療を支える中規模病院（病院総合医育成プログラム認定施設）。家庭医に理解ある他科専門医や他職種と協働でき、多彩な技術研修も可能（超音波・読影・内視鏡・整形外科・婦人科・皮膚科など）。医療と地域を結ぶコミュニティデザインプロジェクトも手がける。
	只見町国保朝日診療所（只見町）	人口 4000 人、高齢化率 45%を超える只見町の有床診療所。地域に唯一の医療機関として子供から高齢者まであらゆる分野の患者さんが来院。多職種や町役場と共に様々な地域の課題に取り組む。家庭医として必要な幅広い能力を身につけるのに絶好の環境。
	喜多方市地域・家庭医療センター（喜多方市）	内科、小児科、整形外科、皮膚科、精神科を中心に幅広い領域であらゆる年齢層の患者さんが来院する公設民営の無床診療所。訪問診療の他、乳幼児健診などの地域保健活動にも取り組み、学生・初期研修医実習の受け入れも多く、教育を通して学ぶ経験が可能。
	ほし横塚クリニック（郡山市）	郡山駅の近くに位置する都市型無床診療所。外来診療や訪問診療、各種健康診断、予防接種などを実践。併設されている訪問看護ステーションと顔の見える連携を構築。連携型機能強化型在宅療養支援診療所として近隣の家庭医療診療所とも密に連携する。
	大原綜合病院（福島市）	福島市中心に位置する総合病院。専門診療科も充実しており、バランスよく病院総合診療研修が可能である。当プログラム唯一の臨床研修指定病院でもあり、初期研修医への教育を通じて学びを深めることができる。

先輩の声

「私たちと一緒に総合診療・家庭医療を学びましょう」

医療生協わたり病院　長江　智紀



総合診療・家庭医療はそこにいる患者・家族を診ることを専門にし、疾患や場所を選ばず、患者や家族にとっての人生を共に考えます。これは私のなりたい医師像そのものでした。しかしそれを実践するには幅広い視野・知見と自己省察の力が必要です。当講座では疾患のマネジメントだけでなく、日々の診療の姿勢、患者との向き合い方、多職種との働き方など、様々な視点から自らの診療を振り返り、フィードバックを受ける機会が多々あります。ポートフォリオ作成についても作成経験ある医師から手厚い指導を受け、自らの気づかない一面を知るきっかけにもなります。当講座は総合診療医・家庭医として自身の診療スキルを向上させるのにこの上ない環境でしょう。

「研修に活かす　施設や世代を越えるつながり」

保原中央クリニック　家庭医療科　持丸　愛弥伽

私が感じた当講座の特徴は、専攻医同士や指導医との関わりが大切にされていることです。例えば、週に 1 度専攻医が主催する勉強会があります。内容は「マクウィニー家庭医療学」の抄読会と、専攻医同士で臨床や家庭医療学の基礎について教え合う勉強会の二本立てで、和気あいあいと意見を出し合いながら学ぶ場となっています。指導医とのつながりとしては、各研修施設の指導医との関わりに加え、メンター制度やハーフデイバックという外来研修があります。臨床に関することから私生活のちょっとした悩み事まで、気軽に指導医へ相談しやすい環境が整っています。「一人だとがんばれる気がしない…」という方はぜひ一緒に学びましょう！

深みのある総合診療を目指す、学習コンテンツの充実

TVカンファレンス

広範な医学知識をアップデート

昨今では珍しくないオンライン勉強会ですが、広大な福島県に点在した拠点を持つ私たちは、10年以上も前から、オンラインで学び、議論する文化が根付いています。

1年間で約50項目、総合診療医が持つべき医学的な知識をアップデートするTVカンファレンス、Ian McWhinney著“Textbook of Family Medicine”から総合診療医を特徴づける能力と家庭医療を深く学ぶ「マクウィニー家庭医療学」を読む、総合診療に特徴的な理論・能力について専攻医が主体的に課題を見つけ学び合う専攻医勉強会。

物理的距離を超えて仲間と一緒に学べる仕組みが充実しています。

きめ細やかな直接指導

ローテート中も総合診療を学び続ける

総合診療研修では内科・小児科・救急科など他科のローテート研修が必須のため、この期間は総合診療・家庭医療の考え方に触れる機会が減ってしまいます。当プログラムでは「ハーフデイ・バック」という仕組みを構築し、他科研修中であっても月に数回診療から離れて総合診療・家庭医療の指導医と学ぶ機会を確保しています。研修中の診療の悩み、総合診療医・家庭医としての考え方を振り返りやロールプレイなどを通して学び続けます。

また、年数回の集合型研修 Family Medicine Resident Forum では、集まるからこそ実施できる模擬診察学習会、ワークショップを企画し総合診療医に求められる能力を学ぶ機会を提供しています。

学生・研修医のための勉強会

学生・研修医が学べる

家庭医療/総合診療 サマー・オンライン・フォーラムとウィンター・オンライン・フォーラムは医学生・研修医向けの勉強会です。総合診療とは何か、家庭医とはどんな医師か、その醍醐味を味わうことができるワークショップやレクチャーを用意してみなさんの参加をお待ちしています！また、画面越しではありますが福島県内各地で活躍する当講座メンバーが一堂に会するため、ロールモデルとの出会いや講座の雰囲気を感じる貴重な機会にもなっています！！詳しくは当講座ホームページまたは公式LINEでご確認ください。

福島医大地域家庭医療LINE

プログラムディレクターのメッセージ

新しい時代を迎える　福島医大の総合診療医・家庭医育成

地域・家庭医療学講座は2006年に葛西龍樹教授が着任して以降、日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門研修プログラムを運営し30人以上の研修修了者を輩出してきました。私は2007年に当講座に所属し、家庭医療専門研修プログラム、大学院医学研究科博士課程で学び、家庭医としての基盤を身につけた一人です。当講座の特徴はやはり日本最大級の研修プログラムの規模でしょう。20人をこえる個性豊かで教育熱心な指導医たち、福島県全域に広がる研修フィールド、この環境に集まってくる専攻医の仲間、研修に協力をしてくださる診療スタッフや地域住民のみなさん。17年の積み重ねが専門研修の充実を支えてくれています。

特に指導医層は厚く・熱く「家庭医療学」を日々の臨床現場で実践しています。「家庭医療学」という名前からは診療所医療が想像されやすいですが、家庭医療学は診療所・病院を問わずどのような診療環境であっても活用できる実践的な学問であり、病院の総合診療医として働く上でもとても役立つ理論です。家庭医療学をしっかり学ぶことは、将来の総合診療医としての診療の充実に必ず結びつくでしょう。

そして2021年、福島県立医科大学は「総合内科・総合診療医センター」を設置し、卒前教育から卒後教育まで継続した総合診療医育成事業に着手しました。地域・家庭医療学講座はその中心の一つとして総合診療専門研修プログラムを運用し、総合内科など他部局と連携して研修での相互乗り入れ、合同でのファカルティ・ディベロップメント企画などの事業を推進していきます。これをきっかけに当研修プログラム責任者は葛西から菅家に交代し、これからの福島の総合診療・家庭医療をつくる新たなステージへ踏み出します。こんなわたしたちと一緒に総合診療、家庭医療学を学んでみませんか。ご連絡をお待ちしています！

専門研修プログラム統括責任者
地域･家庭医療学講座
講師
菅家　智史

福島県立医科大学附属病院　（日本専門医機構認定）

総合診療専門研修プログラム

研修サイトの見学、FaMReFへの参加など、随時相談に応じております。お気軽にお問い合わせください。

福島県立医科大学医学部　地域･家庭医療学講座（事務担当　玉木･國分）

電話 024-547-1516（直通）メール comfam@fmu.ac.jp

Webサイト　https://www.fmu.ac.jp/home/comfam/

facebookページ　https://www.facebook.com/comfam/

福島県立医科大学 医学部 地域･家庭医療学講座では、あなたのキャリア形成を全力でサポートします！

総合診療研修プログラムとは

総合診療専門医は、患者の特定の臓器に着目するのではなく、**地域に住むあらゆる年齢・性別の住民の健康問題**に向き合って医療を提供します。

研修プログラムでは４つの診療の場　**外来・入院・救急・在宅**　において、内科的分野だけでなく小児の診療、男性・女性特有の問題、メンタルヘルス、皮膚ほか、日常で生じる**頻度の高い健康問題**に十分対処できる能力を身につけます。

しかし、総合診療医は頻度の高い健康問題に対処できるだけでは不十分です。**患者を包括的に捉える**こと、**患者中心の医療**の理論と実践、**多職種連携**を実践する方法、**地域をケア**するということ、**プロフェッショナリズム**といった総合診療医を特徴づける考え方も、総合診療研修プログラムで身につけます。

新・家庭医療専門研修の並行履修可能

国際水準の質の高い総合診療医／家庭医を育成する『新・家庭医療専門医』制度にも対応しています。日本プライマリ・ケア連合学会が運営するこの制度は、WONCA（世界家庭医機構）の国際認証を受けたシステムを導入し、国際標準の総合診療医／家庭医を育てる制度です。研修プログラム認定にはより高いレベルの指導体制が求められ、研修の質が保証される制度です。福島県立医科大学　地域・家庭医療学講座ではいち早く研修プログラム認定を受け、2020年度より対応し、2023年は14人の専攻医が並行して研修しています。

●福島県立医科大学の特徴

日本では総合診療はまだ新しい分野であり、2018年の新専門医制度開始に合わせて開設されたプログラムもある中、福島県立医科大学は 2006 年から15年以上の教育実績があります。内科・小児科など他科研修の連携も充実しており、専攻医の希望に合わせてコーディネートできる体制が整っています。

●研修期間とローテーション

研修期間は4年間（48ヶ月）です。十分に総合診療研修期間を確保した点、4年間で新・家庭医療専門研修の研修要件を修了できるよう設定されている点、選択研修の期間を設定している点が特徴です。将来病院での総合診療医としての勤務を希望する場合には、総合診療（病院）の研修期間を長く設定することも対応可能です。ローテーションは必要月数を満たせば順番の変更は希望に応じて可能であり、研修先医療機関の選択も専攻医の希望をふまえて設定します。総合診療専門研修修了後に2年間の内科研修を追加して、内科専門医とのダブルボード取得を目指すことも可能です。

【ローテーション例】

必須の月数を守れば､順番や期間変更は問題なし

専攻医１年目（医師３年目）病　院	総合診療（病院）6ヶ月	内科　12ヶ月	
	ハーフディバック（週1回程度の総合診療外来）		
専攻医２年目（医師４年目）病　院	内科　12ヶ月	小児 3	救急 3
	ハーフディバック（週1回程度の総合診療外来）		
専攻医３年目（医師５年目）病　院	選択 3	選択 3	総合診療(診療所)18ヶ月
	ハーフディバック		
専攻医４年目（医師６年目）診療所	総合診療（診療所）18ヶ月		

※選択は専攻医の希望を尊重　代表例：整形外科、漢方内科、産婦人科、放射線科、精神科 etc

福島県立医科大学　総合内科・総合診療医センター

総合内科・総合診療医センターとは

2020年、厚生労働省 総合的な診療能力を持つ医師の養成推進事業 の実施団体に福島県立医科大学が選ばれました。福島県立医科大学にある総合診療に関連部局が連携し、大学を挙げて卒前教育から卒後教育まで積極的な総合診療医育成事業を展開していきます。

センター設置後も、地域・家庭医療学講座は総合診療専門研修プログラムを継続・発展させ、これまで以上に関連部局との連携・ローテート研修などを通した人事交流を推進し、総合診療医・家庭医の育成環境を充実させていきます。

総合診療医センター関連部局

- 福島医大　地域・家庭医療学講座
- 福島医大　総合内科
- 会津医療センター　総合内科
- 福島医大　白河総合診療アカデミー
- 福島県立宮下病院
- 奥会津在宅医療センター
- 福島医大　総合内科・臨床感染症学講座